

八方原ふれあい盆踊り 地区の笑顔が集まった



踊る人、見る人、食べる人、家族連れ、友だち同士、みんな笑顔

今年の夏は、本当に暑かったですね。各地に深刻な豪雨被害から一転、かんかん照りの毎日が続きました。山口市の最高気温の記録更新というものすごさ。何もしていなくても、ぐったりしてしまう暑さでした。

この暑さの最中に、夏祭りが各自治会で行われました。どうしてこんなに暑い時に、各地でお祭りが行われるのでしょうか。暑さに負けてたまるかというみんなの祈るような気持ちかも知れません。

盆踊りは本来、先人たちへの供養のお祭り、日々の暮らしの中で忘れがちな感謝の気持ちを再確認する日でもあ

8月、水田の稲に穂が出始めました。稲穂には小さな白い花、お米になる前の大事な時間です。この時期に、農家では害虫や病気から稲を守るために薬剤の散布を行っています。小型のヘリコプターが水田の上を何度も行き来していたのをご覧になったでしょうか。また水田の水の状況を見て回る作業も欠かせません。時には地中のモグラがトンネルを貫通させてしまい、田んぼの水がなくなるという事態も起こるとか。収穫まで気を許せません。

「夏」稲の成長に大事な時期



短い時間しか見られない稲穂のまわりに小さな白い花

ります。とはいえ、夏のお祭り、お線香の香りだけではすみません。

8月3日の夜、三角公園は、お祭り広場になりました。バザーにゲームに踊りの輪。それぞれが夏の夜を楽しみました。恒例となった花火は、子どもたちや保護者の方などで大賑わい。一瞬の輝きが花火の命、そのはかなさが余計にきれいに見せてくれるのかも知れません。楽しい時間はあっという間、名残り惜しそうなみんなを残して会場の明かりが消えていきました。

今回も、たくさんのご寄付やご協力ありがとうございました。紙面を借りてお礼申し上げます。

雑草管理は地道な作業



日が高くなる前にやり終えないと（8月10日）

「肥やしも水もやらんのに、よう伸びるの」草刈りをしながらどなたかがつぶやいたのが耳に残っています。

今年の夏の暑さはすごかったです。雑草はびくともしませんね。どんどん大きくなってきます。放っておくと草の藪になってしまいます。

早朝の気温が比較的低い時に、皆さん草刈りをしておられました。ただでさえ楽な作業ではないのに、この暑さと熱中症になっても不思議ではない条件です。十分気を付けて作業をいたしましょう。

※作業中に手足の引きつりが出たら、赤信号です、すぐに休みましょう。

「子ども会」夏のリサイクル作業に奮闘

毎月行われているリサイクル活動

8月は地区子ども会が担当します。8月17日、児童生徒と保護者が総動員で作業を行いました。

普段より1週間遅いのと、お盆などで飲み物の量が多かったのでしょうか、希にみる大量のリサイクル品が集まりました。集積所はアルミ缶やスチール缶でいっぱいになりました。

リサイクル作業の後、保護者の方は通学路の草刈も実施されました。お疲れ様でした。



軽トラックでの回収には子どもたちも活躍

ピーマン生産日本一

ハラタコ

日曜早朝のNHKテレビ番組「やさしい通信」では各地の農水産物を取り上げています。8月25日の放送では茨城県神栖市のピーマンを紹介していました。

茨城県の南西部千葉県との県境に位置する神栖市では終戦後に駐留軍の食材としての需要にこたえるために生産を始めたとのこと。元来砂地でピーマン生産にはむいていたようです。ハウス栽培で一年中出荷できるように、今年年間1万ト

ン、出荷額30億円の日本一の生産地となったのです。

ピーマンという名前はフランス語のピマン（唐辛子）に由来するようですが、そう言えば唐辛子を緑色にして大きくしたらピーマンになりますね。



ですが、どうなりますか。

この夏の暑さも、花にとつては厳しい状況に違いありません。うまく育てたいです。

猛暑に花壇の花もぐったり

環境を守る会の花壇は、景観形成花壇として位置づけられています。今年も田植えの後に、夏の花、「サルビア」と「マリーゴールド」に植え替えました。

順調に育っていましたが、7月半ばからサルビアの調子が悪くなりました。結局、全部弱ってしまいました。どうやらハダニか何か病害虫にやられてしまったようです。

そのままでは、殺風景なままなので、「ベゴニア」を植えました。毎朝、水やりと草取りをしています。



新たに植え付けた「ベゴニア」